

根鄉公民館

## 根郷地区の概要

根郷地区は、佐倉市の南部に位置し、鹿島川右岸とその支流高崎川及び上流の南部川左岸に挟まれた丘陵地に位置している。

「根郷」の「根」は、ものの根元を意味し、嶺・尾根に通じ、「郷」は、里・村を意味しているが、当地区は、台地上或いは台地の根もとを取り巻いて集積した集落により構成されており、旧石器時代、縄文、弥生期の土器出土、住居跡、古墳及び中世の城館跡などが点在し、古来より住みよい所であったと思われる。

中世は、上総一族の勢力下にあった印東荘（古代末から中世にかけて佐倉・酒々井・富里に有った荘園）に属し、承平年間に千葉氏が支配するようになってから集落が点在しはじめ、現在のような村落が構成されたのは藩政時代に入ってからとなる。

明治22年4月、町村制が施行され、六崎、石川、城、木野子、神門、寺崎、太田、大篠塚、小篠塚の9地区により根郷村が発足した。

当地区は、旧来、鹿島川と高崎川流域を中心に、稲作を主体とした農業が営まれる農村地帯であったが、現在、地域全体では、農村地域に残る自然豊かな山野と田畑、藤治台・大作・大崎台・山王・春路等の住宅地域、更にはJR佐倉駅周辺の商業地域、佐倉インターチェンジ周辺の臨空工業地域といった多面的な地域構成となっている。

地区内には、JR佐倉駅と東関東自動車道の佐倉インターチェンジがあり、鉄道と高速道路における佐倉市の玄関口となっており、更に成田空港に近接する地の利を生かし、第1・第2・第3工業団地・熊野堂工業団地が整備され、本市の産業の中心地となっている。

また、地区内には、諸学校施設として、根郷小学校、寺崎小学校、山王小学校、南部中学校、根郷中学校、県立佐倉南高等学校（併設：県立印旛特別支援学校さくら分校）、千葉敬愛短期大学があり、文教地区としての側面も持ち合わせている。

根郷地区の面積は、市域全体の16.9%に当たる約17.5km<sup>2</sup>、人口は14.7%に当たる25,206人であるが、今後は、独立行政法人都市再生機構施行による土地区画整理事業「寺崎北」地区（施行面積46.3ha、計画人口5,000人）への転入等により緩やかな人口増加が見込まれると同時に、JR佐倉駅に近接する寺崎地区は、新たな商業集積地として発展している。

### 根郷地区のデータ

【令和5年3月末現在】

- 根郷地区：面積 約17.5km<sup>2</sup> （佐倉市：面積 103.69km<sup>2</sup>）
- 根郷地区：住基人口 25,206人 （佐倉市：住基人口 171,037人）
- 根郷地区：人口密度 1,440人/km<sup>2</sup> （佐倉市：人口密度 1,649人/km<sup>2</sup>）

# 1. 公民館運営計画

---

## 新型コロナウイルス感染拡大防止

施設利用者等の健康と安全を最優先に、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じていく。

感染状況に応じて、臨時休館や一部利用制限付き開館などを実施する。

開館中は、施設内の消毒を適宜実施、感染予防の啓発のほか、状況に応じて、部屋の定員や集団感染のリスクが高いとされている活動の利用を一部制限する。

市公共の集会施設合同で策定した『新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意事項』及び『「集団感染拡大のリスクがあると考えられる活動」における施設利用の留意点』を当面の間適用していく。

## 運営方針

佐倉教育ビジョンを基本として、根郷地区の特性を活かし、住民の生涯学習及び各種地域活動の場として中心的な役割を果たす施設となるように努める。

## 努力目標

- 新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。
- より多くの人に利用してもらえる施設となるよう、施設設備の提供等に工夫をこらすとともに、利用者に好感を持たれる対応に努める。
- 幅広い年齢層の幅広い要望に応え、時代のニーズに応じた多様な事業を展開する。
- 地域の社会資源を活用するため、また、郷土意識の高揚のための橋渡し役となるように努める。
- 地域に根ざした社会問題への関心の喚起に努める。
- 公民館に関係する各種団体と連携を密にし、活動の支援に努める。

## 施設利用

開館日・開館時間

①日曜・月曜・火曜・祝日 9時～17時

②水曜～土曜 9時～21時

※17時以降の施設利用がない場合は17時まで

利用区分 1時間単位（9時～21時）

休館日 第2・4月曜日、年末・年始 12月28日～1月4日

## 2. 公民館利用状況

### 年度別利用状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用件数 (件)	2,972	2,547	630	1,571	1,797
利用人数 (人)	33,257	27,829	4,673	11,949	17,345
開館日数 (日)	332	309	239	333	333

※市内公民館の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

- 令和4年5月24日～利用制限のうち
  - 管楽器・オカリナ・尺八などの吹奏楽器  
演奏時のみマスクを外すことを可とする。
  - 茶道 所作上必要不可欠な場合のみマスクを外すことを可とする。
  - 社交ダンス 特定ペアのみ、身体接触を可とする。
- 令和4年6月6日～利用制限のうち、室内における黙食を可とする。
- 令和4年10月11日～利用制限のうち、社交ダンス等、当該サークル内であれば、身体接触を可とする。
- 令和4年11月1日～
  - 基本的な感染対策（※）を講じた上で、従前の利用制限は解除
  - ※ 基本的な感染対策（お願い事項）
    - ・ マスクの着用 ・ こまめな消毒 ・ 定期的な換気
    - ・ 人と人との距離をとること ・ 身体接触は最小限にすること
    - ・ 大声での発声、歌唱、吹奏楽器等の演奏は、向かい合っていない
    - ・ 飲食の際は黙食とし、向かい合っているのを避けること
- 令和5年3月13日～ 国・県の基本的な対処方針、各団体のガイドライン等に沿った感染対策をお願いする。

### 令和4年度施設別年間稼働率

施設名称	利用可能回数	利用回数	稼働率
ホール	3,444	874	25.4%
学習室1	3,444	955	27.7%
学習室2	3,444	865	25.1%
プレイルーム	3,444	896	26.0%
調理室	3,444	312	9.1%
和室	3,444	164	4.8%
集会室	3,444	871	25.3%

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	親子で遊ぼう ぼっぼちゃんくらぶ	2歳児と保護者 12組 (6組×2コース)	【前期】 5/12 5組10人 5/19 5組10人 5/26 1組2人 6/2 2組4人 6/9 5組10人 6/16 4組8人 【後期】 10/13 2組4人 10/20 5組11人 10/27 4組8人 11/10 4組7人 11/17 3組6人 11/24 5組9人	親子と一緒に運動や絵本・手遊び・工作等を楽しみ、幼児の様々な発達を促した。
	こども工房	家族とつくるクリスマス木工クラフト こどもと家族8組	12/18 9組22人	こどもとその家族で行うワークショップを通じて、豊かな心を育むプロセスと時間を提供し、家庭の教育力の向上を図った。
青少年教育	根郷公民館 防災デイキャンプ	根郷地区小中学校 児童・生徒 21人	7/3 21人	災害時に役立つスキルを学ぶとともに、子どもたちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育んだ。 また、子どもたちの体験活動に係ることにより、地域住民や地域団体のつながりを深め、災害時の共助について考える一助とした。
	子ども体験講座	勾玉づくり： 小学3年～6年 15人	8/16 14人	体験型事業として、「勾玉づくり」を開催し、子どものやる気や自主性・協調性等を養った。
		絵画教室： 小学1年～6年 15人	7/29 13人	体験型事業として、「絵画教室」を開催し、子どものやる気や自主性・協調性等を養った。
佐倉学	佐倉っ子塾共通講座 「水辺の観察会」	小学生 20人	10/22 4組9人	生活環境課と共催。印旛沼等の自然環境やその他の自然体験学習により、環境への意識を育んだ。
根郷寿大学	根郷寿大学	60歳以上 1グループ 40人 2グループ 40人	【1グループ】 5/20 45人 7/7 43人 9/16 43人 11/18 37人 1/20 39人 3/17 40人 【2グループ】 6/17 43人 8/4 32人 10/21 40人 12/16 41人 2/17 35人 3/17 34人	郷土の歴史や文化、健康づくり等の幅広い分野を学び、教養の向上と社会参加の推進を目的とし、また、受講者同士の交流も図った。 ①歴史・文化(佐倉の歴史等) ②健康づくり(生活習慣病予防講座)

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
成人教育	シニアのための健康づくり講座	成人 20人	10/ 5 20人 10/12 19人 10/19 16人 10/26 19人	健康の維持増進を図り、生活習慣病予防を目的として、日常生活の中で簡単に出来る有酸素運動等を中心に健康体操を実践した。
	シニア向け初めてのスマートフォン教室	60歳以上 20人	9/30 午前 8人 午後 7人	スマートフォンを、安心・安全に使うには、どうしたらよいか。Docomo社員を講師に招き、理解を深めた。
	園芸教室	成人 25人	6/1 22人 6/15 21人	佐倉ハーブ園連携し、ハーブについての講義とハーブ園見学など地元企業を知る講座を実施した。
	防災講座	成人 30人	9/ 1 22人 9/ 8 19人 9/15 20人	地域住民の防災意識の向上させることにより、地域の防災力を強化した。明治安田生命との連携協定事業。
	千葉県文書館出前講座 千葉県における電気事業の変遷と発展	成人 40人	11/4 18人	明治期から戦前期までの電気事業史から、千葉県内に電気がどのように広まっていたか、佐倉市に電気が来たのはいつかなど、今では生活に欠かすことのできない電気事業の歴史について学び、地域への理解を深めた。
佐倉学	佐倉学入門講座	成人 各40人	【佐倉にゆかりある映画】 6/3 34人 【佐倉の鉄道】 12/2 33人	佐倉をテーマに学び、郷土に関する知識を高めた。
	佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪	成人 各10人	【春】 4/16 10人 【秋】 10/15 7人	根郷地区を散策しながら、季節の野草を観察し自然に親しんだ。(野草観察会)
	佐倉学体験講座	成人 10人	12/7 9人	体験型・参加型の講座。地域住民の協力を得て実施する。講座を通じて地域住民同士の交流を図った。「根郷産のこんにやく芋を使ったこんにやく作り講座」。
団体育成	根郷地区社会教育関係団体への支援	該当団体	通年	「南部地区子ども会育成会連絡協議会」、「根郷地区青少年育成住民会議」及び各種団体の活動を支援した。
	定期利用者懇談会	利用団体代表者	5月 1回	公民館の活動について理解を深めて頂くとともに、利用団体からの意見、要望を伺った。また、グループ活動の意義の理解を深めた。今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から書面にて開催した。
	調理室利用者懇談会	利用団体代表者	5月 1回	公民館の活動について理解を深めて頂くとともに、利用団体からの意見、要望を伺った。衛生環境を徹底するため整理整頓作業を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、書面開催と個別にて対応した。
広報	根郷公民館だより	根郷地区の各世帯及び事業所	【4月15日号】 8,250部発行 【9月15日号】 7,500部発行	公民館の主催事業、利用団体の活動、地区の情報などを掲載した館報を発行した。
図書	図書の貸出・返却	幼児～成人	通年	佐倉市立図書館と連携し、図書の貸出、返却の受付を行った。
その他	風除室の作品展示	絵画サークル	通年	定期利用4団体の協力を得て、3ヵ月ずつ風除室の展示を行った。

# 1. 家庭教育事業

## 親子で遊ぼう ぽっぽちゃんくらぶ

### ① 開設趣旨

絵本の読み聞かせや簡単な工作、親子遊び・体操などを通して、幼児の想像力や豊かな心を育み、同年齢の友達と触れ合うことで幼児期的人格形成を促す。また、参加者同士の交流を図り、地域における仲間づくりの機会を提供する。

### ② 募集対象

前期 平成31年4月2日～令和2年4月1日生まれの子と保護者 6組

後期 平成31年4月2日～令和2年4月1日生まれの子と保護者 9組

### ③ プログラム

(前期)

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	5月12日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ はじめまして	楽母楽子 廣田 和子
2	5月19日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ 魚釣りをしよう	
3	5月26日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ ロケットを作って飛ばそう	
4	6月 2日(木) 10:00～11:00	体操 楽しく動いてみよう	米田 葉子 小林 松美
5	6月 9日(木) 10:00～11:00	体操 楽しく動いてみよう	
6	6月16日(木) 10:00～11:00	体操 楽しく動いてみよう	

(後期)

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	10月13日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ おでかけバッグを作ろう	楽母楽子 廣田 和子
2	10月20日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ こまを作ろう	

3	10月27日(木) 10:00~11:00	絵本の読み聞かせ ロケットを作ろう	
4	11月10日(木) 10:00~11:00	体操 楽しく動いてみよう	米田 葉子 小林 松美
5	11月17日(木) 10:00~11:00	体操 楽しく動いてみよう	
6	11月24日(木) 10:00~11:00	体操 楽しく動いてみよう	

④ 講座を終えて

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながらの事業実施となった。感染予防の対策として、当日自宅での検温と健康観察、来館時の検温、手指消毒などを徹底し、また、ジョイントマットを用いることで、他の参加者との距離がとれるようにした。募集定員は前期6組、後期9組。学習回数は各6回で行った。

事業開催前は、会場の清掃、消毒を行い、終了後は参加者にも自分の使用した道具の消毒作業を協力してもらった。

アンケートでは、コロナ禍ではあるがもう少し回数があったほうが良かった、近所に同年代の子が少ないので良い機会になった、という声が寄せられ、受講生は概ね満足感を得られたようだった。

また、新型コロナウイルス感染症対策については、しっかりと対策されていた、間隔がとれていて安心して参加できた、自分の使用したマットを自身で消毒するのは良い取り組みだと思う、と感染予防対策を見える形で提示することで、理解と信頼を得られたと感じた。

こども工房 家族とつくるクリスマス木エクラフト

① 開設趣旨 木工材料を使って、こどもとその家族で協力しておもちゃを制作する。ワークショップを通じて、豊かな心を育むプロセスと時間を提供する。

② 募集対象 こどもと家族 8組

③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	12月18日(日) 10:00~12:00	親子で、クリスマスにちなんだ木エクラフトづくり	アトリエ そうわーくす

④ 講座を終えて

講師に地元で創作教室を主宰しているアトリエそうわーくすを迎えての「クリスマス木エクラフト」。今年度制作したのは「クリスマスクロック」。

大枠は講師が作成してくれていたもので、やすりをかけたり、窓を付けたり、飾りつけをするという作業を子供と保護者で行っていた。時計は壁掛けにも、置時計にもなるようにパーツを取り付けるのだが、くぎ打ちなど子供たちはあまりやったことがないようで、保護者とともに真剣な表情で行っていた。

最後に時計の飾りつけを行うのだが、「見本にはわざと装飾はしない」と講師。その



ほうが子供たちは自由な発想で装飾をし、オリジナリティーあふれる作品が出来上がるという。

講座の最後に、中央に集められた各組の作品は、それぞれ個性があり、オリジナリティーあふれる素晴らしい作品ばかりであった。

参加者からのアンケートには、「楽しかった。」「子供の成長がみられてよかった。」などの声が聞かれ、家族で物を作る機会に満足し、楽しい時間を過ごすことができたようであった。

## 2. 青少年教育事業

### 根郷公民館防災デイキャンプ

- ① 開設趣旨 災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むとともに、子供たちの体験活動を通じ、災害時の共助について考える一助とする。
- ② 募集対象 根郷地区の小学4～6年生 15人、根郷地区の中学生 6人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月3日（日） 9：00～正午	起震車体験、防災倉庫見学、防災啓発ビデオ鑑賞	危機管理課職員

④ <講座を終えて>

本年度の講座内容は、「起震車体験」「避難所運営ゲーム」「災害時に役立つビデオ上映」の3本建てとした。新型コロナウイルスの感染が収束していないため昨年と同様、規模を縮小して実施した。

最初「起震車体験」を予定していたが、起震車が故障してしまい実施できなかった。

次に、災害時には学校の体育館が避難所となることから、その模擬体験として「避難所運営ゲーム」を5名から6名を1組に、4班に分け実施した。最初のゲーム概要の説明時には、大人用のカードを使用したこともあり困惑する生徒・児童も見られたが、カードの読み上げを進行担当が行うなどルールを変更することで、後半はゲームの進め方にもなれ、積極的に参加する姿勢が見受けられた。その後、ビデオ鑑賞を行ったが、熱心に鑑賞する様子が見て取れた。ビデオはゲームの前に上映する予定だったが、インターネットにうまく接続できずゲーム後の上映となった。ホールの無線LANをに接続し動画を視聴する場合、回線が安定せず画面がフリーズする場面があるので以後注意が必要である。

アンケートは、概ね高評価であった。「また参加したい」という回答も多く寄せられ一定の効果はあったと思われる。一方「起震車に乗りたかった」という意見も出ており、不完全燃焼に終わった感は否めなかった。今後の事業継続に関しては、起震車の使用が可能なのかどうかも見据えながら、抜本的に見直す必要があると感じた。

### 夏休み子ども体験講座 勾玉づくりに挑戦！

- ① 開設趣旨 勾玉作りや展示する土器などを通して、縄文時代の生活に触れる機会とするとともに、ものづくり体験の喜びを実感してもらうことで受講者のやる気や自主性を養う。
- ② 募集対象 小学3～6年生 15人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	8月16日（火） 10：00～12：00	勾玉づくり 古代のアクセサリをつくろう	千葉県教育委員会 文化財課職員

④ 講座を終えて

初めに縄文時代や弥生時代の土器や石器などについて解説があった。例年ならば近

くで見たり、触ったりしてもらおうが、現在コロナ禍ということで、直接触ることはひかえた。しかし、講師が製作した石器で新聞紙を切ってみたり、土器のかげらの模様を紙に写し取り、しおりを作るなど様々な体験を通して、楽しみながら古代の人々の暮らしや文化について学習することが出来た。

勾玉づくりでは、講師のわかりやすく丁寧な説明を受け、砥石や紙やすりで削ったり磨いたり作業をすること1時間半。皆自分だけの勾玉を完成させることができた。

アンケートでは「楽しかった」「来年も参加したい」という声が多く寄せられており、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな活動が制限されている中、楽しく貴重な体験ができたと思う。

#### 夏休み子ども体験講座 絵画教室

① 開設趣旨 体験型の講座を通して、受講生のやる気や、創造力、自主性を養う。

② 募集対象 小学1～6年生 15人

③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	7月29日(金) 13:00～16:30	後ろ向きを描こう	ワールサークル会員 他

④ 講座を終えて

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業が中止となり、3年ぶりの開催となった。

当日は、検温・手指消毒・換気と感染対策を取りながら行った。

申し込みを初めて「ちば電子申請サービス」のみで行ったが、対象が小学生ということ、もあり(入力は、保護者)、ほぼスムーズに手続きを行えたと思われる。

講座のテーマは、「後ろ向きを描こう」。講師陣の渾身のテーマで、「いつもと違う角度から物を観察してほしい」という思いからである。

今回使用した「ブリタニア紙」は、経年劣化に強い、中性紙。はじめに、メラミンスポンジと、食塩を使い、色の濃淡のつけ方を学んだ。その後、講師が事前に描いた物を見たり、実際に「後ろ向き」のポーズをとってもらいながら、思い思いの作品を完成させた。最後に品評会を行い、お互いに良い所を誉め合った。

アンケート結果を見ると、全員が「楽しかった」「次回も参加したい」と答え、高評価を得られた。来年度以降も、アンケートにもあった「横向き」など、テーマを変えながら、もうしばらく続けていきたいと思う。

#### 佐倉っ子塾共通講座 水辺観察会 ～こども水辺探検隊～

① 開設趣旨 市内の水辺環境について、講義や野外観察を実施することにより、自然に親しみ、自然を大切にすることを養うとともに、環境の保全の理解と関心を深める。

② 募集対象 小学1～6年生 15人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月22日（土） 9：00～10：30	印旛沼に生息する生き物を観察する	財団法人 千葉県 環境財団 職員

④ 講座を終えて

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、検温・手指消毒・換気と感染対策を取りながら行った。

講座は、まず、大きな網で、生き物を採取し、網に入った生き物がどのような生態なのかを講師が解説した。そののち、すべてを沼に返し、建物内に移動した。

次に、採取できなかったものを図鑑や講師があらかじめ用意したものを用いて解説をした。

アンケート結果を見ると、全員が「楽しかった」「次回も参加したい」と答え、高評価を得られ、印旛沼の生き物について、知識が得られたと思う。

講師は、「印旛沼に生息する生き物が減ってきているので、生き物を持ち帰らない、持ち込まないで」と強く話していた。

### 3. 成人教育事業

#### 根郷寿大学

①開設趣旨 高齢化社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯を持ちながら健康で充実した生活を過ごせるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などの学習の場を提供するとともに、受講者同士の交流を図る機会を提供する。

②募集対象 60歳以上 ①グループ40人、②グループ40人

③プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	5月20日(金) 10:00~11:30	開講式、オリエンテーション 日程説明、班長(副班長)の選出、 グループ討議	館長 担当
	6月17日(金) 10:00~11:30		
2	7月7日(木) 9:20~11:30	生活習慣病予防講座	みつば脳神経ク リニック理事長 大木 剛
	8月4日(木) 9:20~11:30		
3	9月16日(金) 9:20~11:30	消費者契約トラブル ~こんな時、どうする~	佐倉市消費生活 センター 消費生活専門相 談員 丸 裕実
	10月21日(金) 9:20~11:30		
4	11月18日(金) 9:20~11:30	郷土の先覚者	元根郷小学校校 長 諸根 彦之
	12月16日(金) 9:20~11:30		
5	1月20日(金) 9:20~11:30	認知症について ~実際のケースから学ぶ~	佐倉市南部地域地域 包括支援センター 管理者 高橋早矢香 認知症地域支援推 進員 藤山 明子
	2月17日(金) 9:20~11:30		
6	3月17日(金) 10:00~11:30	グループ発表 閉講式	館長 担当
	3月17日(金) 13:30~15:00		

④講座を終えて

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながら、奇数月・偶数月の2グループに分け、同一内容の講座をそれぞれ実施するという形式となった。

コロナ禍において、だいぶ正常に戻ろうという流れではあるが、この講座から感染者を出してしまうと元も子もないので、換気や手指消毒を徹底して実施した。

講座の内容は、歴史について、新しい講師を招いたり、いまだに被害が収まらない消費者契約トラブルについて今一度学ぶ機会を設けるなど内容の見直しを行った。

グループ活動も積極的に行えない状況下において、受講者同士の交流を深めることは難しい面もあったが、各班工夫をして活動を行ったことが「班活動の報告」で

分かった。講座に関する受講者アンケートでは、概ね良好の評価が得られた半面「2か月に1回では・・・」という意見もあることから、次年度の募集方法等検討していきたい。

### シニアのための健康づくり講座

- ① 開設趣旨 シニアの世代になっても健康で暮らせるように、生活習慣病の予防に役立つ日常生活の中で簡単にできる運動について学び、シニア世代のQOL（生活の質）の向上を図る。
- ② 募集対象 成人 20人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月5日（水） 10：00～11：30	柔軟、筋トレ、有酸素、バランス運動の4つの運動を中心に学ぶ	AFAA認定 インストラクター 森 たか子
2	10月12日（水） 10：00～11：30		
3	10月19日（水） 10：00～11：30		
4	10月26日（水） 10：00～11：30		

- ④ 講座を終えて  
毎年好評の健康づくり講座であるが、今年度は定員20名、4回の講座として行った。申込みに関しては、ちば電子申請サービスおよびはがきによる申し込みとし、多くの申し込みがあった。（はがき21名・ちば電子申請サービス13名）今年度は過去2年間の未受講者を優先としたため、参加者全員が新規の方たちとなった。

初回、講座の始まる前にヘルスチェックアンケートを講師に提出してもらい、高血圧や、体の不調（膝痛や腰痛など）のチェックを行ってから、講座が始まった。毎回およそ30分の講義のあと、休憩をはさんで実技に入るというスタイル。講義については、毎日の生活の中に運動を取り入れることで、認知症や生活習慣病をの予防することができるといった内容で、参加者も真剣な面持ちで聞いていた。

実技はリズム体操やヨガを行うなど、かなりの運動量と見て取れたが、受講生ほぼ全員がついていくことができしており、参加者も運動に対してはかなり意識の高い人が多いと感じた。

終了後のアンケートでは、「講座に参加して満足16名、やや満足2名（無記入1名）」と回答があり、参加者の満足度は今年度も高かった。

また、「継続してできる講座があればありがたい」「今回の講座をまた受けてほしい」といった声が多く寄せられ、学ぶ意欲の高まりや運動の継続など、講座開設には効果があったと考えられる。人生100年時代シニアが健康に暮らすために、食事・運動・社会とのつながりの重要性を改めて学び、自分の健康に向き合う機会となった。

### シニア向け初めてのスマートフォン教室

- ① 開設趣旨 スマートフォンの基本操作や、災害対策アプリ等のアプリの活用方法を

学びシニア世代の方にスマートフォンを安全に使うって生活の幅を広げてもらう。

② 募集対象 60歳以上 午前10名 午後10名

③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	9月30日(金) 10:00~11:30	基本的な使い方や文字の入力方法、簡単なゲームアプリの使い方を学ぶ	ドコモスマホ教室専任講師
2	9月30日(金) 13:30~15:00		

④ 講座を終えて

講師1名、サポート・スタッフ4名の計5名で対応。まずは、スマホのスイッチの入れ方から、スライド、ドラッグ、タップなどの基本的用語の説明、長押しした時の機能の違いなどの実践的な機能の説明があり、それに続き受講者が実際操作を行った。講義では短いテーマごとに説明を区切り、続いてそれに対応する操作してみるという形ですすめられた。操作にあたってはサポート・スタッフが指導に当たった。受講者2人~3人に対し1名のサポートが付いたため、一人ひとりの受講者に対し時間をかけ丁寧に納得がいくまで説明している様子が見受けられた。後半はインターネットの使い方、テレビの見方、ラジオの聞き方など。最後に災害情報に関し、エリアメールの見方、災害伝言ダイヤル使い方などの説明。最後の質疑応答でも活発に質問が出ていた。講師も丁寧に応答していた。全体を通すと、説明より操作の時間が多く振り分けられており、同じ操作を何度も繰り返す中で、徐々にスマートフォンに馴染んでいった様子が見て取れた。アンケート結果は、おおむね好評であった。

#### 園芸教室 ハーブに親しもう

① 開設趣旨 佐倉ハーブ園と連携し、ハーブという植物を通して、園芸の基礎を学ぶとともに、地域について知る機会とする。

② 募集対象 成人 25人

③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	6月1日(水) 10:00~12:00	栽培の基礎と管理の方法についての講義	佐倉ハーブ園園長 柴田 忠裕
2	6月15日(水) 10:00~11:30	ハーブ園散策とハーブを使っての挿し木の実習	

④ 講座を終えて 第1日目は「栽培の基礎と管理の方法」についての講義を行った。内容としては、植物を育成する上でのアミノ酸の働き、連作障害についてなど栽培の基本的な内容から、ハーブの利用法、ハーブ栽培のポイントなどについて実践的な説明があった。また、実際にその場でハーブティの入れ方を実演するなど具体的に分かりやすい講義内容となった。一方、受講者からは非常に専門的な質問も出ており、初心者はもちろん、専門的に学ぼうとしている方まで満足できる講義となった。

第2日目は「ハーブ園散策とハーブを使っての挿し木の実習」を行った。ハーブ園の散策では、参加者は熱心にメモをとりながら講師の話に耳を傾けていた。実際に生えている数種のハーブの香りを嗅ぎ比べたり、木に生っているブルーベリーを味わったりと、めったにできない貴重な体験となった。後半は、講師が挿し木の

実演を行った。土の作り方から植え方、その後の管理の仕方など丁寧に説明を受けながら、各受講者も挿し木を行った。最後にオリジナルのハーブティを味わったりと、充実した内容の講義となった。

### 防災講座

- ① 開設趣旨 近年台風、浸水等の自然災害が頻繁に発生し、加えて直下型地震の発生も心配されている中、防災に関する知識とスキルを学び、災害時に市民自らが身を守るための一助とすることを目的とする。学びシニア世代の方にスマートフォンを安全に使って生活の幅を広げてもらう。
- ② 募集対象 60歳以上 午前10名 午後10名
- ③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	9月 1日(木) 10:00~正午	災害後も自宅で過ごす「在宅避難」のススメ	明治安田生命 チーフコンシェルジュ
2	9月 8日(木) 10:00~正午	あなたの防災脳を活性化! 「風水害に備える防災脳ストレッチ!」	
3	9月15日(木) 10:00~正午	予想が可能な地震に備える! もしものときの「アクションプラン」	

#### ④ 講座を終えて

第1日 ハザードマップをパソコンから検索する方法を動画を交えて解説。在宅非難に必要なグッズをクイズ形式で出題するなど受講者の関心を引く工夫がなされていた。続いて在宅非難の必要性、その準備、重要備品等を説明。特に携帯トイレの設置に関しては詳細に具体的な説明がなされ、実践でも即対応できる内容になっていた。

第2日 最近の災害の傾向や、様々な防災に関する情報を携帯電話から取得する方法などを解説。「防災サバイバル・レッスン」では、水の確保の仕方や、安全に避難する方法など、災害から生き抜くためのノウハウが具体例を挙げて説明されており、大変役に立つ内容となっていた。

第3日 地震発生メカニズム、過去の地震被害の特徴についての説明に続き、地震発生時の対応についての講義があった。自宅にいた場合、車に乗っていた場合、商業施設にいた場合など様々なケースを想定し前回と同様クイズ形式で進められた。また、レジ袋を三角巾の代わりに使用方法や、「作ってみよう防災工作」と題し受講者と一緒に新聞紙を使ってスリッパを作るなど、実演を交えての講義となった。

3回を通して、一方的に講義をするのではなく、講師が受講者とやり取りをしながら進めることで、より防災に対する興味や理解が深まり、記憶に残る講義となっていたように感じた。内容のボリュームもちょうどよかった。アンケート結果からは、おおむね好評であり来年度も別のテーマで実施したい。

### 千葉県文書館出前講座

- ① 開設趣旨 明治期から戦前期までの電気事業史から、千葉県内に電気がどのように広まっていったか、佐倉市に電気が来たのはいつかなど、今では生活に欠かすことのできない電気事業の歴史について学び、地域への理解を深める。千葉県文書館の出前講座として開催する。
- ② 募集対象 成人 40人



③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月4日（金） 10:00～正午	明治から戦前期までの電気事業史から、千葉県や佐倉市に電気がどのように発展してきたかを学ぶ	千葉県文書館 中臺 綾子

④ 講座を終えて

日本人が初めて電気に接した時の様子を、江戸時代の電気に関する書物などから解説。エレキテルを使った電気実験を描いた書物からは、江戸時代の人々が電気というものをごどのように捉えていたかを伺い知ることができた。日本ではじめて灯りがついたのは1878年3月25日。3月25日は現在「電気の日」となっている。当時東京銀座にあったアーク灯のカラー図版が紹介されているが、この灯りを伊藤博文が楽しんでいたなど、歴史を感じさせるエピソードも併せて紹介された。また、千葉県全体がどのような過程を経て電気が通って行ったかを説明する際、千葉県の白地図に時系列に沿って色を塗り重ねながら説明するなど、イメージしやすく視覚的にも分かりやすい説明となっていた。

後半は、千葉県に初めて電気を通した「千葉電灯」、佐倉市に初めて電気を通した「佐倉電灯・帝国電灯株式会社」が中心の講義となった。佐倉市の電気の発展には、京成電鉄や藤倉電線の存在も大きかったなど、地元の話も盛り込まれていた。そして、当時の様々な電気会社が最終的には東京電力に集約される過程を学んだ。

全体を通し、当時の書物や新聞記事から電気にまつわるエピソードが紹介するなどし、当時の人々の生活の様子が伺えるよう工夫がされていた。電気の歴史をより身近に感じることができる講義となっていた。アンケート結果からも好評であった。

佐倉学入門講座 佐倉ゆかりのある映画～昭和・平成時代～

- ① 開設趣旨 昭和から平成にかけて、その時代時代の佐倉の姿を映画のシーンから学ぶことで郷土への愛着と理解を深め、地域を見直す機会とともに、佐倉市の新たな魅力を発見する機会とする。
- ② 募集対象 成人 40人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	6月3日（金） 10:00～正午	昭和から平成にかけて、その時代時代の佐倉の姿を映画のシーンから学ぶ。	市史編さん委員 内田 儀久

④ 講座を終えて

内田儀久氏を講師に迎え「佐倉にゆかりのある映画～昭和・平成時代～」と題しての講座。

講座は、映画に使用されたロケ地をただ紹介するのではなく、一步踏み込んだ講義となった。例えば「点と線」(S33年)で使用された実際の「旧佐倉駅」と小説にある「香椎駅」の微妙な違い。列車の車体番号からの実際の撮影現場を推理するなど新たな発見があった。また、「ドールズ」(H14年)のロケ現場(佐倉市内田)、目印となる建物もなく見過ごしてしまうような道端の一場面も、映画一コマと現地の写真を比較検証するなどし特定。映画を見ているだけでは絶対に分

からない指摘もあった。佐倉市を特定できるという意味では、実際の中央公民館という名称が使用された「スーパースキャンダル」(H8年)。市民カレッジの受講生がエキストラとして映画に出演していたという点も興味深かった。

映画は、昭和初期は時代劇、時代を下るにしたがって戦争、長嶋、娯楽ものと時代を反映している。そんな中、映画を通し佐倉市の歴史の一面を垣間見ることができたのは貴重な体験であった。また、新たな佐倉市の魅力の発見に繋がるものとなった。

アンケートからも「興味深いものだった」「参考になった」などの意見があり好評であった。

### 佐倉学入門講座 佐倉の鉄道

- ① 開設趣旨 根郷地区を走る総武本線や佐倉駅周辺に残る鉄道遺構にスポットを当て講演会を実施し、総武本線や佐倉駅周辺の街並みがどのように変わっていったかを知るきっかけづくりとする。
- ② 募集対象 成人 40人
- ③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	12月 2日(金) 10:00~12:00	総武本線や佐倉駅周辺の街並みがどのように変わっていったかを知る	鉄道史研究家 白土 貞夫

#### ④ 講座を終えて

日本で最初に鉄道が走って今年で150年の節目の年に「地元 根郷地区を走る総武本線や、佐倉駅周辺の街並みが、どのように変わっていったかを知るきっかけづくりに」と企画した。

当日は、感染対策として、検温・手指消毒・窓開け換気を十分に行った。

講演は、日本の鉄道の歴史から始まり、新橋～横浜間を走った1号機機関車の紹介、新橋駅舎の紹介をしたのち、千葉県は、四方を水に囲まれ、半島であったことから最後まで、鉄道が敷設されなかったことなどの話があった。いよいよ佐倉駅の話であるが、佐倉駅が現在の場所に設置されたのは、「住民の方が、蒸気機関車の煙で洗濯物が汚れる」と言われたから」という話があるが、それは、間違えで、「佐倉町の中心に線路を敷設するには、かなり手前から勾配をつけなければならないこと」「水運が発達していた銚子へ向かうのに、適した位置」であることから町外の根郷村に設置された」と説明があった。現在の佐倉駅舎は、3代目であるが、2代目駅舎は、映画のロケ地になったことや、貴賓室があったらろうということも興味深い。

様々な、話があり、あっという間の2時間であった。

アンケート結果を見ると、大半が「講座に満足」・「目的が達成されている」であった。

今年から始めている、ちば電子申請サービスでの申し込みであるが、応募者40人に対し、23人が利用していた。

来年度は、別の角度から佐倉の交通についての講演会を考えたい。また、ちば電子申請サービスも普及させたい。

最後に、汽車に乗った最初の佐倉ゆかりの人は、津田梅子であった。

### 佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪「春・秋の野草観察会」

- ① 開設趣旨 根郷地区の自然を散策しながら、春や秋の野草・古木等を観察し、自然に親しむことにより、郷土の自然について理解を深める。
- ② 募集対象 成人 各10人
- ③ プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	4月16日(土) 9:30~12:00	春の野草観察会 六崎地区を散策しながら、野草や古木等を観察し、郷土の自然について関心を高める	佐倉野草会 近藤 維久子
2	10月15日(土) 9:30~12:00	秋の野草観察会 直弥公園谷津田を散策しながら、秋の野草や古木等を観察し、郷土の自然について関心を高める	佐倉野草会 近藤 維久子

#### ④ 講座を終えて

春の野草観察会では六崎・城地区を観察コースとし、地区内に残る古木や野草などを観察した。住宅地が多くを占める地域でありながら、点在する神社や寺院には、市の保存樹に選定されているスギ・カヤ・マキなどがあり、樹齢数百年の巨樹となっている。また、六崎の弁天神社の池は、湧水により形成されているなど、自然も残されており、自生する野草も多く、参加者は講師の解説を熱心に聞き入っていた。講師が持参した木の実のサンプルや資料も参加者にはとても好評であった。

秋の野草観察会は「植物から見た谷津の自然」をテーマに直弥公園で開催した。この直弥公園の谷津田は、現在行政と市民ボランティアの協力により、草刈り・土水路確保などの保全管理が行われている。

前日から降った雨で足元の悪い箇所もあったが、参加者は講師の解説を熱心に聞きながら、谷津田の中に生息する数々の秋の野草を観察した。

この谷津田には、ミツガシワなどの重要保護植物が数多くあり、また、ニホンアカガエルなど保護動物も生息している。谷津の湧き水は、印旛沼の水源としても重要である。この自然を守ることで、すべての生物の循環がなされている、とのことであった。

直弥公園での植物や生物を守るためにも、今後この公園を訪れることがある場合は「監視する」という気持ちで見に来てください、という講師の言葉に参加者も大きく頷いていた。

どちらの会でも、参加者からは「とても楽しく散策することが出来た」「次回もぜひ参加したい」「継続をお願いします」という声が多く寄せられ、また、野草観察に関して学ぶ意欲も多くの参加者が、「とても高まった」と言っている。

今後もこのような地域の自然に親しむ機会を提供し、美しい佐倉の自然を感じ、保存していくことは重要であると感じた。

### 佐倉学体験講座 こんにやく作り講座

- ① 開設趣旨 江戸時代には、将軍家へ献上されていたという佐倉のこんにやく。地元の根郷地区で栽培されたこんにやく芋を使い、地域住民の協力を得てこんにやくを手作りする。
- ② 募集対象 成人 10人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	12月 7日（水） 9:00～13:00	佐倉で栽培収穫されたこんにやく芋を使い、地域住民の協力を得てこんにやくを手作りする	牛玖 昌弘

④ 講座を終えて

このこんにやく作り講座は3年ぶりの開催である。人気講座ということで、待ちわびていた方もいたようである。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、人数も10名ということで募集をし、14名の応募があった。

根郷産こんにやく芋を使用したこんにやくが江戸幕府への献上品であったことで、今回の佐倉学の講座を募集しており、先生が栽培した地元根郷産のこんにやく芋使用してのこんにやくづくりとなる予定だったが、天候の影響や無農薬で育てているとのことで、思うような芋ができなかったとのこと。今回は山武産のこんにやく芋使用となった。

1テーブル3名ずつとなったが、受講生は初めての方とも和気あいあいとした雰囲気、協力しながら、実習していた。

講師のほか2名の応援要員の方が来ていただいたが、講師と同じように豊富な知識で、受講生の皆さんのお手伝いをしてくださったり、質問に答えたりしていただいた。

講師は講座で必要な調理器具などをすべてご用意くださり、また、お土産用に自家製手作りゆずみそやおおまさりのお赤飯なども用意してきてくださった。

講師は自宅の納戸に格納しているという、こんにやくづくりの道具一式を有しており、地域のイベントでこんにやく作りを指導することも多いとのことである。

私達も試食用ということで、急遽実習に参加させていただいたが、出来上がったこんにやくを受講生、講師ともに黙食にて試食してもらった。

コロナ禍でなければ、話をしながら楽しく試食をしていただくこともできたと思うが、残念な限りである。

アンケート結果から「満足・やや満足」と回答をいただき好評であった。さらに「実習で初めての方とも楽しく、また和気あいあいと行うことができた」とのご意見もいただいた。人となるべく距離を取らなければならない昨今であるが、楽しい時間を過ごしていただけたようである。

今回の講座の開催時間は9時半から13時までとしていたが、大変早く出来上がり11時半ころには解散となった。来年度は開催時間を修正して行いたいと思う。

## 4. 団体育成事業

### 根郷地区社会教育関係団体への支援

#### 南部地区子ども会育成会連絡協議会

子ども会は、地域の中で異年齢の子どもたちがさまざまな活動を通じて行動することにより、子どもの社会的成長の糧となる活動である。例えば、子ども会での異年齢での活動は、協調性やリーダーシップを、地域活動では郷土愛が、奉仕活動により公共性が、また、創作活動により創造性が育まれるなど、さまざまな活動による効果が期待されている。

根郷公民館を活動拠点とした南部地区子ども会育成会連絡協議会（南子連）は、南部地区内の子ども会及び子ども会を取り巻く関係諸機関、団体等との連絡調整を図り、各単位子ども会の健全な発展に寄与することを目的に活動を進めている。

例年、子ども会活動に役立つゲーム講習会、交流会や研修などの事業の実施、広報紙「あくていぶ」の発行、子ども会活動に役立つ各種備品の貸し出しも行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ほとんどの活動は中止となった。今できる子ども会の活動の話しあいを重ね、広報紙「あくていぶ」の発行やオンラインによる会議を実施した。

#### 根郷地区青少年育成住民会議

近年、青少年を取り巻く環境は著しく変化し、それに伴う諸問題は複雑かつ深刻化する傾向にあるようだ。こうした問題の解決のため、市民一人一人が問題解決に取り組み、家庭や学校、そして地域がそれぞれの立場で、各種団体と行政が協働して健全育成を推進していくことを目的に、昭和57年、佐倉市青少年育成市民会議が結成された。

組織としては市内7地区の青少年健全育成住民会議と、子ども会育成会連絡協議会、PTA連絡協議会などその他構成団体からなり、事務局は佐倉市こども支援部こども政策課が行っている。

根郷地区青少年育成住民会議は、地域住民が相互に連携協力し、青少年の健全な育成と非行防止、福祉の充実を図るため、研究並びに協議を行い、地域ぐるみ活動を伸長させることを目的としている。主な活動としては、防犯パトロールや地域行事の企画・運営、各種団体への助成などを行っている。

#### 定期利用者懇談会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面にて開催。

#### 調理室利用者懇談会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面にて開催。

## 5. 広報事業

### 根郷公民館だより

○趣旨 公民館の事業、利用団体の活動、地区の情報などを案内するために公民館だよりを発行した。

○発行回数 年2回（4月15日、9月15日）

○発行部数 4月15日号：8,750部 9月15日号：8,000部

○配布方法 各公民館・図書館の窓口配架。根郷地区各世帯に新聞折込みにより配布（4月15日号：8,250部 9月15日号：7,500部）

## 6. 図書事業

### 図書の貸出・返却

○趣旨 読書活動を支援すると共に、個人学習や集団学習への資料提供を行い、学習の深化を図った。リクエストの受付や他館からの返却受付などの利用者の便を図った。また、佐倉市関連資料や根郷地区関連資料を収集し、貸し出すことにより、地域理解を深めるための支援を行った。

○蔵書数 約3千冊

○月別貸出冊数・返却冊数

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出数 (冊)	148	132	127	169	167	166	158	131	126	123	71	150	1,668
返却数 (冊)	292	272	321	294	316	384	329	272	224	269	100	406	3,479